〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
発行人 山崎 哲
編集長 仲井 真裕

# えこお 11

令和8年 11月号
NO. 586

大悲に生きる人とあう
願いに生きる人となる



国立新美術館（港区）

## 西徳寺の予定

### 11月

1日(日)　**報恩講**
7日(土)　午後2時　**定例聞法会**
8日(日)　午後2時半　**城北ブロック会聞法会**
場所：西日暮里「一合」
11日(水) 正午　**婦人会食事会**
21日(土) 午後2時　**総代会**
23日(月) 午後5時　**燈虹塾**
28日(土) 午後5時半　**同行会「和讃」に学ぶ**
法話：大橋 伊知郎

※予定は変更することがあります。
詳しくは寺務所までお問合せください。

### 12月

6日(日)　午後2時半　**中央ブロック会聞法会**
場所：西徳寺
12日(土) 午後5時半　**同行会「和讃」に学ぶ**
法話：仲井 真裕
16日(水) 午後1時半　**婦人会聞法会**
19日(土) 午後2時　**定例聞法会**
20日(日) 午後3時　**燈虹塾**
31日(木) 午後3時　**歳暮法要**

# えこおファイル在庫あります。

## 11夕の山門の言葉

### 愚禿が心は、内は愚にして外は賢なり

愚禿親鸞

近年、科学技術の進歩によって、私たちの生活は便利で快適になり、日々の暮らしに伴う様々な負担が軽減されてきた。特にスマートフォンの進化は著しく、一台あればインターネットに音楽鑑賞、買い物まで出来る優れものである。今となっては手放すことのできない物となっている。

しかし、私たちの生活が便利で快適になる一方で、不安を感じることも増えてはいないだろうか。

最近のニュースでは、ＡＩ(人工知能)を利用した企業へのサイバー攻撃なるものが頻発し、個人情報が漏洩しているとの報道を多く目にする。様々な企業が提供するサービスを利用するには、個人情報の登録は必須といっても過言ではないが、何の疑いもなく登録している私は、何を根拠に信じ切っていたのだろうかとも思わされる。

いずれにしても、私たちが求めた便利で快適な暮らしの背後には、思ってもみないような不安を生み出す結果が待っていたが、どこか他人事で終わっているように感じる。

親鸞聖人が仰る「愚かさ」とは、能力や知識、経験が劣っているという意味ではなく、自身の在り方・生き方がはっきりしていない中で、様々な欲求に身を任せ、どこまでも自分自身に振り回されているような在り方である。

そのような中で、私たちの願ったものが、まさか自分自身を苦しめることになるとは思いもよらず、他者へと責任を押し付けるような在り方になってはいないだろうか。しかしながら、その苦悩の元となるのは、紛れもないこの私であり、その無自覚さこそ、「愚か」と言い表されているように思う。

まさに、「内は愚にして外は賢なり」という言葉が、私たちの相(すがた)そのものをはっきりと目覚ましめ、無自覚に苦悩を繰り返す私たちを、仏さんの願いに喚び帰してくださる言葉である。

(大橋　伊知郎　記)

## ランドマーク
### 国立新美術館

今月は芸術の秋！ということで、港区六本木にある国立新美術館を訪れました。

国立新美術館は建築家・黒川紀章の設計によって、平成１９年（２００７年）に開館しました。国立美術館としては昭和５２年（１９７７年）に開館した国立国際美術館（大阪市）以来、３０年ぶりに新設された日本で最も新しい国立美術館です。


円錐形のカフェスペース

地下１階、地上４階、敷地面積３０,０００平方メートル、延床面積約４９,８３０平方メートルは日本最大です。この美術館の最大の特徴は、コレクション（収蔵作品）を持たないこと。他の国立美術館と異なり、自館の所蔵作品による展示は行わず、公募展・企画展・貸館事業を中心に活動しています。

自然光が差し込む開放的なエントランスホールや、円錐形のカフェスペースはアート作品のような美しさで、圧倒されます。よく「建築そのものが芸術作品」と称されるように、建物自体を見るだけでも楽しむことができます。

１２月１３日まで、「ルーヴル美術館展　ルネサンス」が開催されています。一度訪れてみてはいかがでしょうか。

# 西徳寺本堂令和大改修

予定通り、１０月１日より改修工事を着工いたしました。
先ずは、先般の長雨の影響で雨漏りをしておりましたが、漏れた雨水を外部に排水する施工を致しました。また、重機や資材搬入に向けて、境内の仮舗装が完了し、足場の組み立てに入っております。本堂に向かって右側より、時計回りで足場を設置してまいります。

なお、足場に干渉する墓所の施主様には、墓参できない日程をお知らせしておりますが、ご不明点やご確認は寺務所にご連絡ください。

また、原則、工期中は境内での車両駐車が出来ません。公共の機関および近隣のコインパーキングのご利用をお願い申し上げます。

工期中は第２会館（本堂向かって左）１階を仮本堂としております。引き続きご迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

住職　山崎　哲



本堂



第２会館



# いまさら聞けないお寺のこと

## 「袈裟」



袈裟は仏事で身に覆う法衣の一種で、主に輪袈裟、五条袈裟、七条袈裟があります。袈裟は縦に短い布片と長い布片を縫い合わせますが、一つの縦長の布片を条といい、これを５列に並べると五条袈裟、７列になると七条袈裟となります。

インドの僧侶が古布を拾い集めて、縫い合わせて作っていたのが起源です。汚物を拭くような布を集めて作られたことから糞掃衣（ふんぞうえ）ともいいます。物への執着を捨てるために価値のない古布を用いていたようです。

しかし、現代の袈裟は豪華な装飾が施されています。一見するとこれは、袈裟が生まれた経緯と矛盾しているように感じてしまいます。どういった変遷をたどり、現在の袈裟の形に至ったのでしょうか。

中国の唐の時代に作られ、真言宗の開祖・空海が師の恵果から相伝したとされる『犍陀穀糸袈裟（けんだこくしけさ）』という袈裟があります。

一見すると古布をつぎはぎした糞掃衣のように見えますが、実際には、綴織（つづれおり）という高度な織物技術を用いて糞掃衣を模した代物になります。つまり、質素な布を高級な織物で再現しているのです。

そして桃山～江戸時代では現代の袈裟に見られる、金襴などを用いた華やかな装飾のものになりました。

原初の袈裟は「質素な衣を着るべき」という僧侶の修行の精神が表れたものでした。それが時や土地を超え「教えに対する敬意を美しい織物で表現する」という崇敬の念に移っていったのではないでしょうか。

（深澤 見弥 記）



## 光照寺継承法要（蓮井邦宗元法務員）

１０月１９日、西徳寺法務員として、約１８年勤められた蓮井邦宗氏の住職継承法要が報恩講併修のもと勤修され、帰命山光照寺の第二十二世住職に就任されました。

ご門徒の皆様のお慶びと安堵はひとしおであり、また蓮井新住職のご自坊のご門徒も多数駆け付け、賑々しく、満堂のなか勤まりました。

この度の、門出に私と坊守、大橋副住職と立ち会わせていただけたこと、本当に有難く、感激の至極でありました。これからも福井の地より西徳寺を見護って欲しいと、伝えて帰路につきました。彼の更なるご活躍を、心より念じる次第であります。

最後に、今まで蓮井君をお育ていただきました、西徳寺のご門徒、関係者の皆様に、本人になり代わり重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。

住職　山崎 哲










## 合唱団エコー「台東区合唱祭」

西徳寺混声合唱団「エコー」は、去る１０月１８日に浅草公会堂にて開催された第６９回台東区合唱祭に出演させていただきました。

今回我々は日本音楽史において著名な山田耕筰氏作曲の「芬陀利華（ふんだりけ）」を歌わせていただきました。まだまだ聞きなじみが薄い仏教歌ですが、皆さんに聞いていただける場となり有難く感じました。

（団長　高橋 淳 記）



本番前のようす



演奏会を終えての一枚

皆様の代わりに、お花・お線香等、お墓にお供えできます。

## 城西ブロック会聞法会

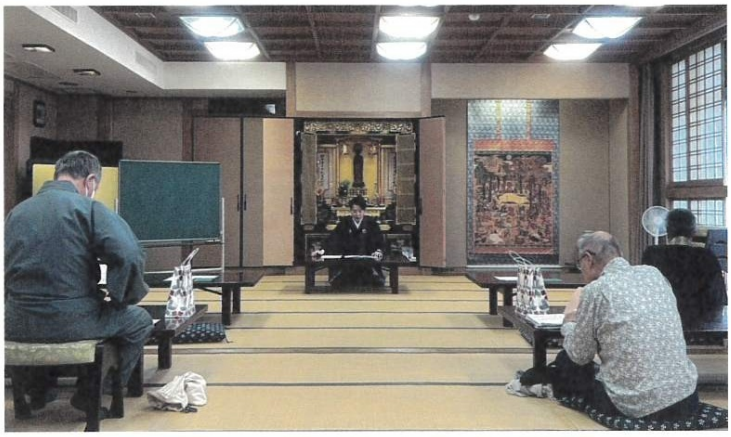
１０月４日（日）、西徳寺「栴檀の間」を会場に聞法会を開催致しました。

聞法会では山崎住職が法話の中で、「荘厳（しょうごん）」という言葉について触れられました。「荘厳」とは「形なきものが形作られる」という意味がありますが、「その形には先立っての願いがあり、その願いを尋ねていくことが大切ではないか」と話されました。

改めて、私たちのこの我が身も、願われた存在であったのだということを、感じさせられました。

その後は希望者のみで懇親会を行い、賑やかな時間を過ごせました。ご出席いただきました皆様には、この場を借りて改めて御礼申し上げます。ご出席ありがとうございました。

（担当：大橋 伊知郎 記）



## 城南ブロック会聞法会

１０月１１日、三茶しゃれなあどに於いて第１１６回聞法会を開催いたしました。会員９名のご参加をいただき、『楽も苦もどちらも苦しみ』をテーマに皆様と学ばせていただきました。

山崎住職より、どこまでいっても行き着くところは苦なのだと話されました。苦楽の生活から解放されるというのは、執着を離れることであると。しかし、満足することができない存在である我々は、自分自身で苦を生み出しているということを教えられました。

聞法会後の懇親会では、今回から新しいお店を利用させていただきました。いつもとは違う新鮮な気分で、みなさんとお酒や食事をご一緒しながら、語り合い、大変楽しい時間となりました。

**次回は、２月１４日（日）。横浜関内の澤田聖徳ビル**に於いて、聞法会を開催する予定です。ご参加をお待ちしております。　（担当：大谷 隆 記）



## 坊さんのツブヤイッター

### @フカケン



先日、自坊の報恩講があり、実家のある札幌に帰省しました。法要では西徳寺で学んだことを思い出しながらお勤めしました。

その夜は地元の友人とビールで乾杯。積もる話もあり、お酒が進みました。やっぱりサッポロビールですね。

**#報恩講　#大光寺　#サッポロビール**



乾杯

前号（10月号）ツブヤイッターに、「法華宗総本山 本成寺」を"新潟県燕市"と記載いたしましたが、"新潟県三条市"の誤りです。訂正してお詫び申し上げます。

## えこお志お礼

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせて頂きます。

板橋区　　木下 順子 様

千葉県　　鈴木 秀夫 様

江戸川区　形屋 顕弘 様

## 内愚外賢

**～賢者の信を聞きて、愚禿が心を顕す～**

先日、お参りに伺ったお宅で、「亡くなったおじいちゃんが大好きだったのに、夢に出てきてくれないんです」と故人のお孫さんから言われました。私も、「若くして亡くなった友人が夢に出てきてくれないんです」と話をしました。

浄土真宗では葬儀の際に清めの塩を用いず、火葬場への往復も違う道を通ることはありません。夢でもいいから会いたい人に、塩は撒けないでしょう。

もう一度会いたい、そんな祈りにも近い心から、人は仏事を勤めるようになったのでしょう。最近、仏事の形式についてお尋ねいただくことが多いのですが、大切なのは形ではなく心。先だった方への思いに寄り添って、私も仏事に携わっていきたいと思います。　（編集長　仲井 真裕 記）



国立新美術館のエントランス

「一代墓地」、各種墓地、受付中。墓石への法名刻みはお問い合わせください。

えこおに対するご意見・ご感想、お待ちしております。

saitokuji@ce.wakwak.com

https://saitoku-ji.jp

ホームページ

ゆうちょ銀行お振り込み口座
00120-0-80670 名義 西徳寺

Facebook